

2012年5月～2021年10月の間に 当科において腎凍結療法を受けられた方へ

ー「慢性腎臓病患者の腎癌に対して動脈塞栓術併用で凍結療法を行った症例の検討」

へご協力をお願いー

研究機関名 岡山大学病院
研究機関長 前田 嘉信

研究責任者	岡山大学病院	放射線科	助教	馬越 紀行
研究分担者	岡山大学学術研究院保健学域	放射線技術科学	教授	生口 俊浩
	岡山大学病院	放射線科	教授	平木 隆夫
	岡山大学病院	小児放射線科	講師	松井 裕輔
	岡山大学病院	放射線科	助教	富田 晃司
	岡山大学病院	放射線科	助教	宇賀 麻由
	岡山大学病院	放射線科	医員	宗友 一晃

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

腎細胞癌は、腎臓を原発とする悪性腫瘍です。手術が標準的な治療法とされていますが、凍結療法は手術と比べ腎機能に与える影響が少ないため、慢性腎臓病の方に行われることも多い低侵襲治療です。凍結療法の前に、腎細胞癌に対して動脈塞栓術を追加することで、凍結療法時に病変の視認性を高めたり、穿刺に伴う出血のリスクを低減させるなどの利点も報告されていますが、慢性腎臓病の方に造影剤を用いた動脈塞栓術を行うことは、腎機能への影響が懸念されます。

この研究は、岡山大学病院放射線科において、慢性腎臓病 4期や5期の非透析患者さんで腎凍結療法を受けられ、かつ様々な理由で凍結療法前に動脈塞栓術が行われた方を対象とし、腎機能を含めたその後の経過を調べることを目的として行われます。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

この研究により、凍結療法前動脈塞栓術の適応についての理解を深め、慢性腎臓病患者さんにおける腎凍結療法の治療アルゴリズム構築に大きく寄与する可能性があります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2012年5月1日から2021年10月31日の間に岡山大学病院放射線科において、動脈塞栓術併用で腎細胞癌に対し凍結療法を受けられた患者さんのうち、治療前の推算糸球体濾過量(eGFR)が30 ml/min/1.73 m²未満である成人患者さん11名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2024年3月31日

3) 研究方法

岡山大学病院放射線科のデータベースより2012年5月～2021年10月に施行した腎癌凍結療後の患者さんを抽出し、研究対象者を選定します。その後、凍結療法後の腎機能の推移や腎癌の再発の有無など治療経過について後方視的に検討を行います。

4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテなどから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、既往歴、身長、体重、腎機能、血液生化学検査
- ・ 病変サイズ、病変部位、治療後の腎癌の局所制御率

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院放射線科医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたまたは代諾者（ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人））のご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び研究の独創性の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画および研究の方法に関する資料を入手または閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、この研究におけるあなたの個人情報等の開示はあなたまたは代諾者が希望される場合に行います。

この研究の結果は氏名、生年月日などあなたを直ちに特定できる情報を分からない形にして学会、論文で発表しますのでご了承下さい。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代諾者の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院放射線科

所属：助教 氏名：馬越 紀行

電話：086-235-7313（平日：9時00分～17時00分）

ファックス：086-235-7316